

Anchor's
PERSON

「100人、100億、100年企業。
これが私の目指す企業像です」

大日整工 株式会社 代表取締役

梅崎 — Umezaki Daisuke — 大佑

2017年に整備会社として設立し、2020年には運送業もスタートした『大日整工』。わずか数年で確固たる経営基盤を築いた梅崎社長だが、まだ現状に甘んじるつもりはない。今後は整備で大阪一、運送で全国展開、さらに新事業への参入も目指していくという。信頼する従業員たちと共に走り続け、社長が見据える最終地点は、従業員100人、売上100億、そして100年後も続く企業を作り上げることだ。「難しいことにこそ挑みたい」——新進気鋭の経営者による挑戦が始まった。



会社情報 COMPANY PROFILE

大日整工 株式会社

URL : <https://www.dainiti.jp>

【所在地】和泉本店：大阪府和泉市小野田町511-1

【設立】2017年

【従業員数】17名

【事業内容】総合整備工場
新車販売、中古販売、買取
整備、钣金、塗装、架装
各種部品販売、自動車部品商
一般貨物運送業、貨物利用運送業

企業理念 CORPORATE PHILOSOPHY

日本経済を最前線で支え、我社の職務に誇りと自信をもち、一日一日を大事にし日々大きく成長出来る企業を目指す。

- 一、日々研鑽と錬磨に努めよう
- 一、安全・確実・丁寧・迅速作業
- 一、礼儀正しく、笑顔で元気良く
- 一、常に最善の方法を考え行動しよう

MAINTENANCE

整備事業

2017年設立の「大日整工」は、トラックを専門とした整備会社。整備実績は年間2,000件を超える。エンジンオイル交換・タイヤ交換はもちろん、エンジン修理・キャビンやボディの載せ替え・架装修理など、トラックに関する故障には何でも対応可。また、トラックの定期的な点検整備も請け負っており、小さな故障も見逃さず調べ、事故防止を徹底している。確かな整備技術、そして一刻も早くトラックをお客様のもとに返す迅速作業で、多くの物流会社から信頼を集める。



TRANSPORTATION

運送事業

トラックの整備を手掛けてきたこれまでの実績を活かし、「大日整工」は2020年から新たに運送事業をスタートした。現在は鋼材などの重量物や日用雑貨をメインとした荷物を扱っており、近畿圏を中心に全国各地を配送エリアとしている。近距離から中距離、長距離まで幅広く対応する他、定期便・スポット便・チャーター便などの様々な運送プランも用意。また、整備業を手掛けているからこそ、イレギュラーな問題にも即対応できるスピーディーかつ柔軟な対応力も強みだ。



“整備”と“運送”の二本柱で日本の物流を下支えしていく

年間2,000件以上という整備実績を誇る、トラック専門の整備会社「大日整工」。2020年には運送事業もスタートし、設立から右肩上がりに売上を伸ばし続けている。そんな注目の会社を、元WBC世界バンタム級王者の山中慎介氏が訪問。梅崎社長の整備や会社経営に懸ける想い、今後の展望など、様々なお話を伺った。



特別対談

「大日整工」代表取締役 梅崎 大佑 × 元WBC世界バンタム級王者 山中 慎介

—先ほど工場も拝見しましたが、トラックを整備するとなると非常に重労働で大変そうですね。

それはもう大変ですよ（笑）。やはり普通の乗用車と比べると、部品から何から全てが物凄く重いからです。それに整備の仕事はどうしても汚れますし、よく「3K」なんて言われてしまいますね。でも、私はこの仕事に誇りを持っていますし、「整備は格好良い」と心の底から思っていますよ。「格好良い」の1Kです（笑）。

—3Kじゃなくて1Kだと。良い心意気ですね！ どのようなところに整備の魅力があると思われますか。

動かなくなってしまったトラックも、整備士は見て触ったら直すことができます。そんなこと整備士にしかできないじゃないですか。だから、私は整備士ってめちゃくちゃ格好良いと思うんです。

それに、整備は人の命を守っているとも思うんですよ。整備をしていないトラックはもはやただの凶器です。大袈裟ではなく人の命を奪いかねません。そうした人命を守るのが我々の仕事なんです。もっと言えば日本経済は物流が回っていますが、その物流を我々は支えている。だから整備は直接的にも間接的にも、人々の命や暮らしを守る仕事なんだと思っています。

—いやあ、本当に格好良いですし、意義深いお仕事でもあります。梅崎社長が整備業界を志すきっかけは何でしたか。

整備士が夢になったのは、中学2年生のころでした。実は、私の兄は脳に障がいを持っているのですが、その兄が小さいころからスポーツカーや改造車が大好きだったんですよ。しかし、知的障がいがあると自動車免許は取れなくて、車関

係の仕事にも就けないんです。そのことを兄は高校生ぐらいの年代になって初めて知り、自暴自棄になった時期があったんですよ。その時に私は兄に約束したんです。「俺が代わりに整備士になる」と。それ以来、整備士が私の夢になりました。—何とも感動的なエピソードですね。社長の優しいお人柄も伝わってきます。では学業修了後から整備業界に？

ええ。20歳で整備業界に入り、大手トラックディーラーに勤めました。実はその後一度、車屋を立ち上げたんですよ。2年弱続けたものの、全く駄目でしたけれど（苦笑）。それから再び会社勤めに戻り、建設関係の重機を整備する会社で経験を積んだこともありました。当時から整備業でもう一度独立することを見越していましたから、色々な整備を経験し、あらゆる技術を身につけようと

「従業員は宝。皆と共に会社を成長させていきます」

思ったんです。そうして磨いた技術力は今、当社の強みになっていますね。たとえばお客様の中には建設会社さんもありますが、トラックは任せられるけど、建設機械は別の会社を頼らないといけないとなると、面倒じゃないですか。当社なら全てを一手に引き受けられます。「あそこに持っていけば何でも整備してくれる」——そう思っていたことが我々のやりがいでもありますね。

——御社は2017年の設立ということですが、社長にとっては2度目の挑戦です。独立には相当な覚悟もあったのでは？

ありましたね。やはり一度失敗していることもあって、周囲からの反対もありました。ただ、妻だけは応援してくれましたよ。「駄目なら私が稼ぐ」とまで言ってくれました。そのお陰で気が楽になりましたし、より一層「頑張ろう」という気合いが入りましたね。私には4人の子どももいるのですが、そんな家族の存在が大きな原動力でした。

あとは、やっぱり従業員ですね。最初は私一人でのスタートでしたが、今では整備士が6名、その他に事務や部品販売

のスタッフ、営業マン、運送ドライバーもいて、全員で17名です。皆がいないと会社は成り立ちませんから、従業員は宝ですよ。彼らやその家族も全部ひくくため、私の家族だと思っています。

——ドライバーさんがいらっしゃるというお話もありましたが、御社では2020年から運送業もスタートされたとか。

ええ。お客様から「運送業もやってみたら？」と声を掛けていただき、始めることになりました。お客様にはこれまで様々な面でお世話になってきましたから、整備と運送の二本柱で、恩返しをしていきたいと強く思っています。

——整備業者が運送業も始めるとするのは、珍しいケースだと思います。

そうですね。運送業を始めたことで、整備にも活きるものがありました。整備をしている時に、運送会社のお客様からはよく「トラックを止められない」という言葉を聞いていたんですね。その気持ちが以前は分かっていたんですが、運送業を始めて理解できました。トラックを走らせることができれば、物流業はお金を生み出せず、従業員に飯を食わせることもできません。そのことを分かったことで、今は整備のほうでも1日でも早く、1秒でも早く、トラックを復帰させることに全力を注いでいます。

——整備と運送の二本柱で、今後さらに飛躍していくのが楽しみです。

ありがとうございます。経営者にとって一番難しいことは、自分の技術や会社を後世に残していくことだと思うんですね。難しいことですが、だからこそ挑戦していきたいというのが私の想いです。



代表取締役

梅崎 大佑

大阪府和泉市出身。33歳。自動車整備の専門学校を卒業後、大手トラックディーラーに3年勤め、自動車販売業で独立する。20代半ばで会社勤めに戻ると、物流大手系列の整備会社や建設重機の整備会社に勤務。幅広い経験を積み、2017年に「大日整工」を設立した。

私が目指す企業像は「100人100億100年企業」。まず従業員100人を目指し、次に売上100億を目指す、そして最終的に100年後も存在する企業を目指す。これを目標に今は突っ走っているところです。そのために2020年末には新しい工場を作りました。民間が作った工場としては、南大阪一の大きさと収容率です。ただ、南大阪が一番ということに満足はしていません。やっぱり大阪が一番、さらに運送業では全国展開を目指して、これからも頑張っていきます！

(2020年10月取材)



元WBC世界バンタム級王者

山中 慎介

After the interview

「お話を伺った従業員さんからは『社長に付いていいたら間違いない！』と元気の良い返答をいただきました。社長も『従業員は宝』と断言されていましたし、『皆で一生懸命に仕事をする毎日が楽しい』ともおっしゃっていましたね。皆さんの固い結束力や活気溢れるお姿を見て、今後ますます会社は大きくなっていくと確信しましたよ。さらなる躍進を私も応援しております！」

障がいを持つ人々が、車に携われるように

100人100億100年企業——そんな目標に向けて、梅崎社長が進めていこうとしているのが事業の多角化だ。『大日整工』は2020年、運送事業にも着手した。「他にもまだまだやりたいことがあります」と話す社長は、将来的に介護事業と障害者福祉事業の構想を持っているという。

特に障害者福祉事業への想いは強い。「障がいを持つ方々が車に関わるのは難しいとされてきましたが、我々プロがしっかりとフォローし、実現していきたい」。自動車に関

する作業の一部を、障害を持つ人々が担うような事業所の立ち上げを見据えているという。

そんな目標の根底には、言うまでもなくお兄様の影響があるのだろう。昔から車が大好きだったお兄様のように、車に携わりたいと願う人々に活躍の場を提供していく。「前例がないので最初は認められないかもしれない。それでも決して諦めません」。若かりし日に抱いた想いを、社長は今も追いかけている。

COLUMN